



第108号
発行

〒970-8003
いわき市平下平窪字熊ヶ平6番地
TEL (0246) 23-5311
FAX (0246) 23-5312
はまぎく荘新聞編集委員会
HP <http://hamagiku.i-fukuin.com>
E-mail: kuma-house@mx5.et.tiki.ne.jp

●紙面紹介●

- 1面 共生共感/花見
- 2面 今年度事業計画
散髪ボランティア
教育実習生
- 3面 県障がい者体育大会
行事計画
保護者との研修会/遠足
- 4面 新職員紹介
ハンドベル発表会
浜しんやさんコンサート
異動・退職者/編集後記

お花見でのひとこま



共生共感

所長 志賀道子

障害のある人たちの家族の働きかけで、終生保護する終の棲家として、昭和五十四年四月に「はまぎく荘」は開所しました。その後、障害のある人たちの自立を支える施設として生まれかわり、「入所者の地域移行」を掲げ、法人で立ち上げたグループホームや生まれ育った出身地にくらしの場を移すことを目標に、四十四人が何らかの形で地域移行し、その他死亡退所等で現在は四十人の入所利用者が生活しています。入所利用者の平均障害支援区分は5、平均年齢は五十六歳、最高年齢は八十五歳と高齢化が進んでいる状況です。

二十年前のはまぎく荘はと言えば、「施設生活しか知らないなんて辛いよね」そんな職員の話し合いから、普通のくらしを目指して、男子三人、女子三人の利用者がアパート生活を始めました。当時の所長も、国の福祉施策も「施設福祉から地域福祉・在宅福祉へ」と変わってきている。今までの処遇が利用者の自立にどれ程役に立ったかを反省し、見直す時です。と呼びかけています。親子二泊沖繩旅行も実施しました。当時の利用者は、身体の機能低下などはほとんど見られず健康でした。食事に関しても、制限や特別食でなければいけない利用者も少なく嚥下機能の心配もすることはありませんでした。

あれから二十年、利用者は、長い人生をそれぞれがんばってきました。私たちは、そういう利用者の心身の機能の低下の兆しにいち早く気付いて何をしたらでしょうか。従来の考え方を変えず、叱咤激励して支援していませんか。私もそうしてきた一人です。残存能力を保持させようとするのも大切かもしれませんが、老後の生活へと導き、がんばらなくてもよい人生の目標を利用者と共にたて、支援することも考える時期に来ているのではないのでしょうか。利用者
の意思決定支援をしつつ、高齢の知的障害者の豊かな老後について、障害者を支える者として求められる知識や支援技術・内容に切り替えて支援することが必要であること、を認識してもよいと思います。高年齢を迎える障害者の特性を一番に考え、安心・安全に過ごせる生活環境の整備、高齢者支援についての理解が深まるなどして、スキル向上を図り支援員と利用者が共に楽しむための支援をしていきたいと思う今日この頃です。

お花見

施設周りに今年度も鮮やかな桜が咲き誇りました。全員での花見はあいにくの雨で中止となつてしまいましたが、花見用に準備した豪華で鮮やかなお弁当を楽しむ姿はまさに「花より団子」といったところでしょうか。翌日には、各作業班ごとに桜の下を散歩したり、写真撮影をして春の暖かな一日を過ごすことができました。ぜひ、皆様にも足を運んでいただき春の風物詩を楽しんでいただければと思います。

今年度事業計画

次長 植原 明 美

清々しい新緑の季節を迎え、今年度が始まりま
た。はまぎく荘の「共生共感」の石碑の周りの草木も
鮮やかな緑色になり一段と石碑が鮮明に見えています。
二十九年度は常勤十九名・非常勤五名の職員構成では
じまりました。昨年当法人で教育実習を行った方が四
月に入職しました。とても喜ばしい出来事でした。

(支援)

利用者の人権・意思決定支援・そして個別支援計画
に基づき、一人ひとりをしっかりと見て、本人の気持ち
を尊重した支援をしていきます。

(医務)

最高齢は八十五歳・支援区分は5・6が二十八名と高
齢化・重度化に年々進んでいます。利用者の訴えやサ
インを見逃さず、早期発見・早期治療に心がけ、機能
低下による事故に注意し、残存能力の保持に努めます。

(給食)

民間業者と調理業務委託の契約をしました。利用者
一人ひとりにあった食事提供に業者と連携しながら提
供していきます。

(防災)

敷地の法面は土砂災害警戒区域になっているので、豪
雨・土砂災害等も想定した避難訓練を重点に置いて実施
します。

(施設整備)

- ・フェンス取り付け工事
 - ・非常通報システム工事
 - ・（社会福祉設備等設備整備国庫補助金・市補助金）
 - ・LEDへの交換工事
 - ・廊下風よけ工事
 - ・厨房・食堂エアコン交換
- 等を予定しています。利用者様への快適な生活を提
供するために整備を行なっていきます。
- 利用者職員が共に寄り添う一年にしたいと思いま
す。

支援

年々、利用者の高齢化、重
度化が増してきている中、健
康第一に、「安心・安全」に
利用者の生活を送れるように
支援していきます。利用者一
人ひとりの思いを大切にした
個別支援計画に基づいて、望
む生活が実現できるように、
一人ひとりの支援のあり方
を、支援員のみでなく職員全
体で共有し、チームワークに
よる支援を目指します。その
ために、日々、利用者一人ひ
とりをしっかりと見て、しっ
かりと声に耳を傾けていきま
す。

医務

先日、遠足でフラワーセン
ターへ出掛けてきました。利
用者の高齢化に伴い体力の低
下が見られ、外出時に車椅子
を利用する方も増えました。
食事についても刻み食を設定
したり、誤嚥の危険もあるた
め、介助を必要とする方も多
くなっています。皆さんの好
きな外出が今後でもできるよ
う、日中活動の中で筋力低下
を予防する運動、カラオケで
大きな声を出すことで骨折や

誤嚥を予防し、いつまでも楽
しく生活が送れるよう支援し
たいと思っています。

給食

給食では、昨年未までのつ
ばさへの業務委託を終了し、
魚国総本社へ四月より労務委
託という形式で業務を委託し
ました。給食業務専門の業者
への委託となり、集団給食や
大量調理マニュアルに沿った
食事提供ができるようになり
ました。また、厨房へエアコ
ンを導入していただき衛生的
な温度帯で調理・提供できる
ようになりました。今後も利
用者の皆様に喜んでいただ
け、安心・安全な食事提供に
努めていきたいと思っています。

散髪ボランティア

昨年十二月、毎年行なわれ
ている内郷美容組合さんによ
る『散髪ボランティア』があ
りました。
利用者さん
が楽しみに
しているの
は、カット
していただ
き素敵な姿
になること



だけではなく、美容師さんた
ちとの楽しい会話です。その
場はとても明
るい雰囲気
で、みんなの
笑顔が輝いて
いました。



教育実習生

今年度の五月、保育士資格
の取得の一環として福島学院
大学の教育実習生が四名訪れ
ました。この記事を執筆して
いる宍戸、また、今年度より
勤務しております津田の兩名
も同大学出身であり、それぞ
れはまぎく荘、はまなす荘で
の施設実習を経て、障害者支
援の道へと進むことを決め、
現在勤務に励んでおります。
至るところで人材不足といわ
れる世の中ですが、私たちが
この職業の良さや障害がある
方への理解を伝えていくこと
も、障害者支援という職を将
来の選択肢
に結びつけ
ていく機会
になるのだ
はないかと
思っています。



県障がい者体育大会



五月二十一日あ
いづ陸上競技場に
て、福島県障がい
者体育大会が行わ
れました。初夏を
感じる晴天の下、
お揃いの運動着を
着て、一名の方が
ジャベリックスロ
ーに、四名の方
がフライングディ
スクに参加しまし
た。本番当日に向
けて、午後の活動
の時間を利用して
それぞれがメダル
の獲得を目指して
練習をしました。
練習の成果を發揮

し、メダルを獲得できた方、
惜しくも獲得できずに終わっ
てしまった方、それぞれが来
年の大会に向けての目標を見
つけられたのではないでしょ
うか。大会に参加した皆さん
は帰荘後も笑顔に溢れ、メダ
ルを獲得した方は誇らしげな
表情が伺えました。また来年
も大会に参加し、たくさんメ
ダルを獲得できるように練習
を重ね、参加メンバー全員が
メダル獲得を目指して頑張り
ましょう。



フライングディスクに参加した立野さん



ジャベリックスローに参加した山崎さん

保護者との研修会



今年も『保護者・職員研修
会』が、三月四日（土）から
一泊で「いわき新舞子ハイ
ツ」にて行われました。一年
に一度、保護者と職員のお互
いの情報交換と交流を目的に
研修会と懇親会を開催してい
ます。研修会では、所長から
事業計画や福祉を取り巻く現
状と課題について話がありま
した。続けて、現場である支
援部からの報告と、看
護師・栄養士からの報
告がありました。その
後、参加された保護者
と職員で四者面談を実
施、個別支援などの説
明だけではなく、他愛
ない話をする事で交

流を図ることが出来ました。
懇親会には、保護者・職員間で
膝を突き合わせて話をする時
間。新人職員は改めて挨拶を、
馴染みの職員は近況報告をす
るなど、和やかな時間となり
ました。美声の持ち主たちは
マイクを握り、最後にはフラ
ダンスも披露され大いに盛り
上がりました。今後も継続し
ていく予定です。これからも
で参加したことの出来ない保護者
の皆様も、多くの参加をお待
ちしております。



行事計画

4月	花見
5月	障がい者体育大会 遠足
6月	所内研修
	小島保育園との交流会
	グループ旅行（日帰り①）
7月	グループ旅行（日帰り②）
	グループ旅行（日帰り③）
9月	みはま福祉祭
	小島保育園との交流会
	グループ旅行（日帰り④）
10月	芋煮会
	幼稚園との交流会
	所内研修
11月	グループ旅行（一泊①）
	グループ旅行（一泊②）
12月	グループ旅行（日帰り⑤）
	クリスマス・忘年会
1月	所内研修
2月	生活習慣病予防検診
3月	所内研修
	教室発表会
3月	保護者との一泊研修



「外に行けないのは残念で
したが、室内でも楽しむこと
ができました」との声が聞か
れました。お天気には恵まれ
ませんでしたが、皆さんの楽
しむ顔を見ることができよ
かったです。

遠足 フラワーセンター

五月二十五日は、待ちに
待った遠足の日です。フラ
ワーセンターに外出しまし
たが、あいにくのお天気でした。
センター内の施設をお借り
し、おやつを食べたりお弁当
を食べたり、お友達とおしゃ
べりしたりして各々過ごし
ました。

新職員紹介

今年度、新しい職員として迎えた方々です。長い付き合いの職員共々、今後どうぞ宜しくお願い致します。



支援員 津田 誠也

四月より、新採用となりました津田誠也です。私は、元々は保育士を目指し、大学で保育系の分野を学んで参りました。障がい者施設で働きたいと思ったきっかけは、障がい者施設での実習を経験し、今まで自分が知らなかったことに衝撃を受けたとともにとても魅力を感じたからです。まだまだ福祉の分野においては未熟な点が多いですが、利用者の方と関わっていく中で自分らしい支援の仕方を見つけ、頑張っていきたいと思えます。



支援員 田中真由美

四月より契約職員としてまぎく荘で勤務しております。田中真由美と申します。まだ戸惑う事もありますが、とてもやりがいを感じながら日々働かせていただいております。これから利用者の皆さん一人ひとりに寄り添いながら、愛のある支援に努めてまいります。



支援員パート 鈴木麻里子

五月よりパート支援員として入職しました鈴木麻里子です。利用者の方々に笑顔で接していただき、楽しくお話しさせてもらうことが毎日の楽しみになっています。これから不慣れなところもあると思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いたします。



★ハンドベル発表会

「発表会開きたいね。」この一言から物語が動きました。昨年11月中旬より音楽講師・渡邊幸子さんの指導の下、週一のペースでひたすら練習に励んできた面々。「発表会すんのか!」「出掛ける!」と、より一層やる気を見せてくれ練習にも力が入りました。迎えた運命の四月八日の本番：会場は「アリオス音楽小ホール」。渡邊さんが主催する音楽発表会のオーブニングで披露してきました。結果はとい

浜しんやさんコンサート

毎年恒例となった、浜しんやさんと仲間の皆さまによる慰問コンサート。季節はクリスマスシーズンといふことで、イルミネーションをまとった豪華なツリーを背景に歌謡ショーの幕は上がりました。浜さんを筆頭に、目の前で披露されるおなじみの歌と生の楽器演奏に、利用者の皆さんも思い思いに盛り上げます。定番の『きよしのズンドコ節』が始まれば、どこからともなく愉快なひよっとこたちが登場して、



うと、見た事もない大観衆の前に緊張の連続で練習通りとはいきませんでした。無事演奏を終え皆それぞれやり遂げた満足感を顔に浮かべていました。今後は九月に行なわれる「みはま福祉祭inはまぎく」でリベンジを予定。物語はまだ続きそうです! 皆さん乞うご期待!



異動・退職者

異動職員 (H29・4)

布施 裕孝 課長

野の花ホームへ

夏見 友和 支援員

はまなす荘へ

退職者

佐藤 愛美さん

薄葉 美紀さん

水野 駿佑さん

お疲れ様でした。



編集後記

私たちの職において、「気付く」ということは非常に大切なことだと思います。いつもと違う様子から体調を崩しているのではないかと気付くこと。いつもと同じ様子でも、どこか普段より楽しそうにしているように気付くこと。何気ない毎日に一日一つでも新たな発見を得ながら、より良い日々を過ごしていきたいものです。九月二日(土)には、みはま福祉祭inはまぎくが開催されます。皆様の御参加を心よりお待ちしております。

「はまぎく」一〇八号御覧下さい。